

第 3 回品川区基本構想等策定委員会

「品川区のめざす将来像」に関する意見について

1. 「にぎわい、活力」に関する分野

テーマ	意見の概要
区民活動(地域コミュニティ)を活性化する	・最近では、マンションに引っ越してきた 30 代の親子世帯が、積極的に地域と交流するようになり、地域コミュニティが新しい形で生まれつつあるのではないかな。
	・戦前の隣組のように外部から何か力が働いたとき、地域が結集し連帯意識を持つことができる。今はこうしたインパクトが少ないが、環境への取り組みは地域が結集する要因になっていくのではないかな。
	・アンケートで区政協力委員と一般区民の回答に乖離がある。どのくらいの区政協力団体、消防団等の団体があって、その中で町会がどのような役割を果たしているのか一般区民にも分かるように示し、参加意欲を高め、地域コミュニティの土壌づくりをする必要がある。
	・1 日 10 分は笑わなければならない等、笑顔を重視する条例を作ってみても良いのではないかな。笑顔は地域での会話のきっかけとなり、会話を契機に地域のきずなが深まれば犯罪の抑止にもつながる。
	・コミュニティに関して、具体論を基本構想に明記するかは別としても、具体的に、どこで事業を実施するかということを頭に浮かべながら、議論していくことは非常に重要である。
	・広報で品川区の持っている様々なリソース、実施している取り組みを明らかにし、区民が利用できるようにすることが重要である。
産業全般の発展を目指す	・品川区はかつては関東の物流拠点であり、江戸時代から交通の要衝とされていた。また、東京全体からみれば、品川は住工商業のバランスがとれた町であり周囲からの期待も高い。その思いを基本構想で受け止めていく必要がある。
製造業の競争力を高める	・中国、韓国との競争が懸念されているが、技術力では韓国も中国も日本には勝てないと考えている。両国とも労働者が 1 つの企業に長く勤めることは少ないため技術が定着せず高まっていけない。
	・区内の工場では中学生や高校生に現場をみせる取り組みが行われている。ものづくりは日本産業の原点であり、伝統の伝承のためこうした取り組みは重要。
	・日本ではみなに同じ教育を受けさせているが、もっと実学の間を設ける必要がある。机上の勉強が重視されているが、それだけではものづくりは伝承されない。
	・工場誘致は難しいが、既存の産官学連携の枠組みを活かしながらソフト産業の集積基地として発展を目指すとうい。

商店街の活力を維持する	・品川区は 23 区でも商店街の活力のある地域。今後は一律支援ではなく選択を迫るような形で支援を行い発展させていくことも必要である。
	・商店街に活力があるためには、店舗それぞれが元気である必要がある。後継者不足などにより昔ながらの商店は減少しているが、地域に支持される店をマイスター店として認定する取り組みを実施している。
	・商店街に活力がないと防犯上も良くない。また、商店が失われることで人情味あふれるコミュニケーション機会が失われつつある。
	・戸越銀座商店街のような IT を用いた取り組み、品川縣ピールのような地域ブランドの構築等への取り組み、子どもたちによる環境問題への取り組みを行っている。
	・商店街では、マイスター店舗の取り組みやPRが行われているが、新しいマンションの周辺にはそのような商店は少なく、商店街にまで足を伸ばすようなこともない。他市では、子どものいる家庭に、若干の割引があるようなカードを配布する取り組みが行われている。そのような制度があると商店街に行くことも増えるため、良いのではないか。
都市型観光の魅力を高める	・空き店舗をリサイクル活動の拠点や休憩所などとして有効活用すると良い。
	・品川区は水辺から山手まで幅広い地域を形成している。また、立会川周辺には、昔ながらの景観も残っており、商店街ではそれらを守る取り組みも行っている。
	・外から訪れてみたいと思わせることができないと人は来ない。そのような水辺のあり方を、目黒川等の周辺で検討してみてもどうか。
地域文化を創出する	・立会川の花街道や目黒川でカヌーのイベントが行われており、観光だけでなく子どもの教育にも寄与しており、今後大きくしていきたい。
	・生活文化を大切にするという視点が重要である。旧東海道など歴史的な文化も生活のなかで引き継がれて歴史性を帯びたものである。
	・本の読み聞かせをしてもらいたい時など、どのような人がどのようなことを行うことができるかという情報があれば良い。
生涯学習・スポーツを振興する	・大井町駅前に図書館ができれば良い。今は不便なところに図書館が立地している。
	・区民の学習について「生涯設計構想」をどのように考えるかを検討すべきである。その上で、講座の内容を系列化し、生涯学習の中で今学んでいる内容の位置付けを確認できるようにすると良い。
	・自分の健康は自分でつくるという意識が重要である。・スポーツ施設充実の要望も多いが、実際には施設はそれほど混んでいない。
国際交流を活性化	・区のスポーツ施設の利用率が低いのではないかと指摘もあったが、それは使い方、使われ方に関する情報が、あまり知られていないことに原因がある。
	・国際交流の活性化には、子供から大人までの生涯教育の中で、自国の風土、歴史、伝統文化を理解し、外国語で表現できるようにすることが必要である。

2. 「教育・子育て」に関する分野

テーマ	意見の概要
子育て支援を充実する	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保育の充実に向け、まだまだ保育園に従事する保育者のやるべきことは多い。保育を受けている子ども1人1人に対し、友達と遊ぶ、身近な環境にふれる、友達と思いを伝え合う、友達と共同で活動する、友達と表現の楽しさを共有する、小学校との連続性を生み出す、など基本的な部分でやるべきことがある。 ・保護者がお互いに相談しあえる場や保護者の組織化等、孤立化を防ぐための仕組みが必要である。 ・子どもが増える地域づくりを目指したい。そのためには、子育てに対する様々な支援が必要であり、経済的支援等も含め、母親が働きながら子育てをすることができる環境づくりを今後も継続して頂きたい。 ・子育て支援策、公園・広場の整備、町内行事への支援を進め、品川に住みたい人が集まれば福祉にも好影響をもたらし、コミュニティの衰退も防げる。「子どもの集まる品川」が様々な分野に関連するキーポイントである。 ・区内の産科病院が減っている。また保育所や学校などは、子どもも保護者も常に「選ぶ」ことを迫られている。 ・品川で育った青年たちが小さい頃の遊びを今の子どもたちに伝えるイベントを自主的に行っているほか、母親のサークル、NPO 等も増えてきている。様々な講座も充実してきているが、体系だっていないため、区民には分かりにくい。
学校教育を充実する	<ul style="list-style-type: none"> ・学区の自由化は地域コミュニティの希薄化につながるという意見もあるが、教育の自由という観点からは好ましく新しいコミュニティのあり方は別途前向きに考えていく必要がある。 ・高校入試が日本の子どもをダメにしている。価値観や道徳を身につける中学時代に周囲をライバル視させ競争意識をあおることは、望ましくない。教育行政は高校と中学校で都区の役割が分かれているため品川区単独で実施することはできないが、子どもの発達から考えると、中高の連携などができると良いのではないか。 ・小中における英語教育をもっと実践的な内容にしてほしい。 ・子ども自身が何が正しいか自ら判断することのできる能力や、情報を適切に解釈するリテラシーを向上させる教育が重要である。 ・学校給食の民間委託後の状況について、評価が必要である。
家庭の教育力を向上する	<ul style="list-style-type: none"> ・モラルのない親が増えており、「親力」のベースアップが必要である。そのためには地域コミュニティの強化、情報提供・普及啓発が重要である。 ・小さい子どもを育てる親子を対象に、躾の仕方を教える講座を実施していくと良い。 ・学校や地域の教育は副次的なものであり、まずは、家庭における躾教育が必要である。 ・子育て・教育の分野では、親育てが重要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・品川からモンスターペアレント等といわれるような親を生み出してはならないと思う。
子供への社会教育を充実する	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの間にアイデンティティ・クライシスが起きており、子どもたちが地域の大人たちと接する場や機会を増やすとともに、学校教育のなかで生きる力を育てることを目的とした教育などがあると良い。 ・子どもも大人もゆとり教育をはき違えており、大人から子どもへ勉強以外に学ぶ場や機会を提供する必要がある。 ・一人っ子が増えたことで甘やかされて育てられる子どもが増えている。 ・学歴社会のなかで、勉強ばかりさせられ、頭でっかちの子どもが多くなっているように思う。 ・商工会議所では「座席譲りを進める会」という取り組みを行っており、こうした社会教育も重要である。
学校と地域の連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの「ふるさと意識」を育むため、学校・地域・保護者の連携が必要である。
子供の安全を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所では区が小学生に配付している「まもるっち」用のストラップを寄付する取り組みを行っている。

３．「健康・福祉」に関する分野

テーマ	意見の概要
医療環境の充実と区民の健康づくりへの取り組みを促進する	・区民からは救急医療体制の充実に対する要望が多い。これまで医師会でもこの点に注力してきたが今後も重要である。ただし、これはアンケートの結果なので必ずしも利用者の意見が多いわけではない点に留意が必要である。
	・区内では大規模病院とその他医院との連携は進んできている。
	・健診の充実に対する要望も多いが、受診率はそれほど高くない。予防医学の観点から、まずは生活習慣の改善が重要である。来年度から実施される特定健診ではメタボリック症候群等を対象とした健康づくりが行われる。高血圧や糖尿病等の病気を抑制することができれば、健康な社会の構築や医療費の削減につながる。
	・健診率が上がらない理由の一つとして、区内に婦人科が少ないこと、乳がんのマンモグラフィーの検診を実施する病院が少なく予約がとりにくいこと等があるのではないかと。
介護サービスへの方向性の確立と充実を図る	・タウンミーティングで区長が介護施設に対するチェックを大至急実施すると話していたがその点を適切に進めていただきたい。また、介護サービスの水準の向上やサービス内容の管理についても、区としての考えを明確にし、人的充実、施設の充実など今後の取り組み方針を明確にすべきである。
	・今後爆発的に増大する介護ニーズへの対応の方向性を明確にすることが重要である。将来、団塊世代が介護を受ける側になったとき、在宅ケアだけでなく施設ケアの拡充に本腰入れていく必要がある。駅周辺における介護施設の設置、地域との連携について検討していくことが必要である。ただし、施設設置中心では財政的に厳しくなるため、地域力の活用に向けた新しいコミュニティの再構築が重要である。
	・介護保険の開始とともに、品川区標準というものを設定しているが、それが区民に的確に伝わっていない。区民１人１人に対してどのように伝えていくのか考えることが重要である。
	・様々な施策があるものの、その体系性や継続性がないとの指摘もあったが、これはもっともな指摘である。かつて家庭奉仕員と呼ばれていたホームヘルパーが、現在、訪問介護員と制度変更されている。このようにサービスの利用者が振り回されてしまうような状況に対して、区として国に要望する等の姿勢が重要である。
福祉サービスの充実と区民への周知を図る	・品川区では、都内でも先進的に様々な福祉事業が行われているが、それらのサービスが区民にまだ十分に利用されていない。今後、品川区方式を今後しっかりと根付かせていく必要がある。

4. 「環境」に関する分野

テーマ	意見の概要
身近なみどりを生み出す取り組みを活性化する	<ul style="list-style-type: none"> ・品川区はみどりが少ない。区には、個人住宅の改築の際、庭木を残し増やすよう指導して頂きたい。セットバックの空間の活用など、身近なところからみどりの保全に取り組むことが重要である。公園や川、街路樹などの公共空間における保全は当然のこととして、個人所有のみどりに関する保全も重要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化運動は、まずは足元から・身近なところから進めていくことが重要である。小さなみどりをたくさん増やしていけるような環境を整備したい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都では、小中学校の校庭を芝生化し緑化する計画を進めているらしいが、学校では、庭で植物を育てるなど、身近な緑化の取り組みを行っている。そこでは、ものを慈しみ、育て、大切にする気持ちを育成することも目的としている。こうした取り組みに際して、学校も植物を育てることには素人であるため、盆栽好きな区民や、植物を育てることが得意な方の指導など地域の方と連携しながら緑化運動を推進して頂きたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・既に実施している民間の屋上緑化への助成や区の施設の改築の際の屋上緑化などに加えて、今後は、区内の区以外の公共施設に対する取り組みを進めて頂きたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の公園はきれい過ぎる。子どもたちが何でもできる公園が増えるといい。自然に身近にふれることができる大井ふ頭の野外活動広場や、世田谷区のプレーパークのように、子どもの生きる力を育む公園づくりを、品川区でも行って頂きたい。
環境への負荷を軽減する	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街ではレジ袋に関する取り組みを実施しているが、杉並区ではレジ袋を有料化しており、持ってこない場合にお金を取るなどの厳しい取り組みの方が効果的である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・品川清掃工場での環境破壊成分の排出量の実績値について区民に公開してほしい。
環境に配慮したまちづくりを進める	<ul style="list-style-type: none"> ・環境もまちづくりと一体で検討する必要がある。

5. 「安全・安心、市街地整備」に関する分野

テーマ	意見の概要
災害につよいまちづくりをすすめる	・商工会議所で防災について議論した際、避難所は小中学校を利用するが、そこに入れるのは区民だけであり、昼間人口にどのように対応するのかという問題が挙がっている。
	・ケーブルテレビ品川で、中越地震の際に、地震の予知が50秒前にできたと聞いている。予知を行うための設備もそれほど高くないと聞いているので、小学校などに配置し、予知ができた段階で、小学校の門を開けるといった体制の整備ができると良いのではないかと。
計画的な市街地整備をすすめる	・現行の長期計画における再開発を中心とした都市軸をベースとしたまちづくりにより、産業も増加し、昼間・夜間人口が増え、ある程度目的は達成できた。
	・荏原地区には再開発手法を持ち込むのではなく、アメニティ創出をコンセプトとしてまちづくりを進めていくべきであり、身近なみどりを増やしていくことが重要である。
	・大井町周辺ではかつてスーパーが進出したことにより商店街が衰退していったが、現在、そのスーパーも撤退するということが話題になっている。地域住民は、今後の地域に不安を感じており、区としてどのように関与していくのか検討して頂きたい。
安全で適正な交通環境を確保する	・「ゾーン30」という、まちなかを30km/hで走行させる取り組みを実施できれば良い。
	・防犯登録の充実による放置自転車の完全撤廃、地域の実情に応じた駐輪場の整備、商店街における自転車の利用抑制、交通安全指導の強化による歩行者に配慮した自転車利用の徹底などが必要である。
多様な主体の連携による防犯体制を強化する	・地域で子どもが不審者に遭遇した事件に対し、地域の関係者が子どものケアを行い、警察がパトロールを行ったということがあった。このように警察と区・地域・商店街などの連携による取り組みを強化することが必要である。

6. その他

テーマ	意見の概要
男女共同参画について	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会のコンセプトは、焼き鳥の串のようなものであり、全ての行政分野に共通するものである。こうした横串は男女共同参画社会だけではないため、このような横断的な観点から検討して頂きたい。
昼間区民の位置付けについて	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所では、税金を払っている企業体を区民とみなすべきかということが議論になっている。この点についても構想のなかで取り扱った方が良い。 ・昼間人口が多い地域では、区民とは何かという議論があり、ロンドンのシティやオーストラリアのシドニーでは昼間人口が議員選挙の選挙権を有している。この点について本委員会で議論し新しい考え方を提示することは難しいが、基本構想の中でこうした課題をどのように触れるべきか議論を行っても良い。
基本構想のスローガンについて	<ul style="list-style-type: none"> ・一般区民と区政協力委員のアンケート結果の乖離を埋めるため基本構想のなかで特に何を訴えていくのかを明確にし、スローガンとして打ち出していくことが重要である。本日の議論では、「笑顔」「ふるさと意識」「子ども倍増」等のフレーズはインパクトがある。
参画と協働による区政運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策全般における区の関与のあり方は必ずしも共通のものとならないが、どの分野についても、区がどのように関与していくのか、そのあり方を検討していくことが非常に重要である。

以上